

1年 電気技術科

シラバス

| | |
|----------|---------------------------|
| 国語 | 現代の国語 言語文化 |
| 地理歴史 | 地理総合 |
| 数学 | 数学 I |
| 理科 | 科学と人間生活 |
| 保健体育 | 体育 保健 |
| 芸術 | 美術 I |
| 外国語 | 英語コミュニケーション I |
| 家庭 情報 | 家庭総合 情報 I [*] |
| 工業 | 工業技術基礎 工業情報数理 電気回路 |

備考 情報 I^{*}は、工業・工業情報数理で代替 2 単位

国語科「現代の国語」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 新現代の国語（三省堂） 学習課題ノート（三省堂） 五訂版常用漢字オールクリア（尚文出版） |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 |
|------|---|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|--|---|
| 1 | 「届く言葉、届かない言葉」 「ひとまず、信じない」 「人が死なない防災」 「評価した情報をまとめる報告書」 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の概要を把握し、言葉の役割を考える。 論理の展開を的確に捉え、要旨や要点を把握する。 文章の効果的な組み立て方について理解する。 情報の妥当性や信頼性について考える。 抽象的な表現について、自分の体験をもとにわかりやすく説明する。 調べたことを整理して説明資料などにまとめる。 |
| 2 | 「水の東西」 「中身当てクイズ」 「折々のことば」 「檻の中の街」 | <ul style="list-style-type: none"> 文章の中で比較されているものを読み取る。 筆者の論理を整理・分析する。 各自でクイズの答えを考え、他者と交流する。 筆者が芦田愛菜さんの文章を引用した意図を推察する。 ブックトークを行う。 写真と文章で伝わることの違いについて考える。 |
| 3 | 「多様な意見に触れる」 「ものことば」 「情報を活かして説得的に書く小論文」 | <ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションの方法を知る。 手順を参考に、意見を出し合う話会活動を行う。 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解する。 表現テーマ例集を活用し、自分の意見を文章化する。 具体的な事例を用いてわかりやすく書く。 |

| 評価の観点 | 内容 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けているか。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高められているか。 自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 言葉がもつ価値への認識を深められているか。 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持っているか。 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が見られるか。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> 評価の観点を踏まえ、定期考査の得点と平常点から総合的に評価を行う。 平常点は、提出物（課題、ノート、学習プリント等）・小テスト・授業に取り組む姿勢を考慮して評価する。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間の授業を大切に、積極的に挙手をして発表しましょう。 ○ 教科書をよく読み、漢字や語句の意味を調べておくようにしましょう。 ○ 板書された事項以外にも大切なことは書き留め、自分が分かるノート作りを心がけましょう。 ○ 進んで読書をする習慣を身に付けましょう。 ○ 漢字は地道に覚え、漢字テストにも積極的に取り組みましょう。 |

国語科「言語文化」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 新 言語文化（三省堂） 新 言語文化学習課題ノート（三省堂） 五訂版常用漢字オールクリア（尚文） |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 |
|------|---|

登場人物の

| 単元 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---------------|---|--|
| 1 | 「千年の時が与えてくれる安堵」 「ありがたきもの」（枕草子） 「虎の威を借る」 「ゴール」 「短歌・俳句」 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が『枕草子』から読み取った、現代にも通じるテーマを理解する。 ・筆者独自のものの見方について考える。 ・漢文の読みに慣れ、この話が意味する事柄を考える。 ・登場人物の言動から、人物像を捉える。 ・夏に関する素材を理解し、実際に作品を作る。 |
| 2 | 「羅生門」 「景公の馬」（説苑） 「芥川」（伊勢物語） 「小倉百人一首」 | <ul style="list-style-type: none"> ・場面設定を確認し、「下人」の心情の変化を理解する。 ・登場人物の発言や行動の意図を考える。 ・「男」の行動を整理し、和歌に込められた心情を読み取る。 ・歌が詠まれた背景や心情を想像し、内容をまとめる。 |
| 3 | 「静夜思、月夜」（漢詩） 「神無月のころ」（徒然草） 「木曾の最期」（平家物語） | <ul style="list-style-type: none"> ・詩の形式を理解し、心情や時代背景を考える。 ・大意を捉え、筆者の考え方を読み取る。 ・主従それぞれの心情を捉え、人物像を考える。 |
| 評価の観点 | | 内 容 |
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したか。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を文章中で使えるか。 |
| 思考・判断・表現 | | <ul style="list-style-type: none"> ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているか。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高められているか。 ・自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができているか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容や構成、展開の理解に取り組んでいるか。 |
| 評価方法 | | <ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点を踏まえ、定期考査の得点と平常点から総合的に評価を行う。 ・平常点は、提出物（課題、ノート、学習プリント等）・小テスト・授業に取り組む姿勢を考慮して評価する。 |

学習に対するアドバイスと留意事項

- 毎時間の授業を大切にし、積極的に挙手をして発表しましょう。
- 教科書をよく読み、漢字や語句の意味を調べておくようにしましょう。
- 板書された事項以外にも大切なことは書き留め、自分が分かるノートづくりを心がけましょう。
- 進んで読書をする習慣を身に付けましょう。
- 漢字は地道に覚え、漢字テストにも積極的に取り組みましょう。

地理歴史科「地理総合」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 高等学校 新地理総合 (帝国書院) 標準高等地図 (帝国書院) 高等学校 新地理総合ノート (帝国書院) |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 世界の人々の生活・文化に関する地域的特色と共通の課題を理解し、世界を大小様々な地域的まとまりから考察させることによって、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 |
|------|--|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|--|---|
| 1 | 第1部 地図でとらえる現代世界 1章 地図と地理情報システム 2章 結びつきを深める現代世界 | <ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図を使いこなすための知識と技能を学ぶ。 地図の特性やGISの仕組みを理解する。 交通や情報網の発展、貿易の拡大など、活発化する人・モノの移動について、私たちの生活とのかかわりから理解する。 |
| 2 | 第2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 2章 地球的課題と国際協力 | <ul style="list-style-type: none"> 各地に多様性をもたらす地形、気候といった自然環境と、民族、宗教などの社会環境が、人々の生活に及ぼす影響について理解する。 アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアなど、具体的な地域の事例を通して、自然環境、社会環境と各地の生活・文化とのかかわりについて理解する。 地域的課題について、原因を考察し、解決のためにはどのような取組や協力が必要かを理解する。 |
| 3 | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 2章 生活圏の調査と地域の展望 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の地形や気候の特徴を捉え、起こりやすい自然災害について考察する。 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を扱うための地理的技能を身に付ける。 |

| 評価の観点 | 評価規準 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 世界各地を地域ごとに区分し、世界各地の結び付きを理解しているか。 諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けているか。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して、総合的に思考・判断しているか。 世界の多様性について、各地の自然環境と社会環境から考察しているか。 地球的課題の背景とその複雑性について、多角的に考察しているか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 学習活動に積極的に参加しているか。 世界地理に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身に付けているか。 |
| 評価方法 | 出席、授業態度・取組、提出物（ノートなど）、定期考査により評価します。 学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定を行います。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的にメモしてください。 ○ プリント等はノートに貼付するか、ファイルにまとめてください。 ○ 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。 ○ 定期考査前には、教科書を読み返し、プリントを復習すると良い結果につながります。 |

数学科「数学I」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---|
| 単位数 | 4 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 新編 数学I (数研出版) Study-up ノート数学I (数研出版) |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 |
|------|---|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|--|--|
| 1 | 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 | <ul style="list-style-type: none"> 式を多面的にみたり処理したりするとともに、数を実数まで拡張する意識を理解できるようにする。 三角比の意味やその基本的な性質を理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 |
| 2 | 第1章 数と式 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 |
| 3 | 第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 データの分析 | <ul style="list-style-type: none"> 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 |

| 評価の観点 | | 評価規準 |
|---------------|--|---|
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈し表現・処理する技能を身に付けることができたか。 |
| 思考・判断・表現 | | <ul style="list-style-type: none"> 数や式を多面的にみて変形する力、論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現し相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して問題解決したり、過程や結果を考察し判断する力を養うことができたか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> 数学の良さを認識し活用しようとする態度、数学的論拠に基づいて判断する態度、過程を振り返り評価・改善しようとする態度で授業に臨むことができたか。 |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出（レポートやノート）」により評価します。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績の相加平均とし、5段階法でも評定します。 | |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業は必要に応じ、板書します。板書しなかったことも意欲的に、ノートにとってください。 ○ 演習プリント等はノートに貼り付けてください。 ○ 先生の話をよく聞き、積極的に挙手・発表をしてください。 ○ 定期考査前には授業で解いた問題をもう一度解くとよい結果につながります。 ○ エスタブリッシュメントテストは、一回一回、真剣な姿勢で取り組んでください | |

理科「科学と人間生活」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---------------|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 科学と人間生活（東京書籍） |
|-----|---|-------|-------------|-------------|---------------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 日常生活や社会との関連性を図りながら、身近な物質とその変化への関心を高め、見通しをもって主体的に観察、実験などを行い、科学的に探求する能力を育てるとともに、自然の事物・現象の基本的な原理・法則を理解させる。 |
|------|---|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---------------|--|--|
| 1 | 科学技術の発展 3編 光や熱の科学 1章 光の性質とその利用 2編 物質の科学 1章 材料とその利用 | <ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が身近な生活に密接に関係することを理解させる。 光の波や粒子としての性質について理解させ、作図などで考え方を説明できるようにする。 金属を構成する原子やプラスチックを構成する分子の性質や結合の種類について理解させ、金属やプラスチックの種類について、実験を通して科学的思考力を身に付けさせる。 |
| 2 | 1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 4編 宇宙や地球の科学 1章 自然景観と自然災害 | <ul style="list-style-type: none"> ヒトの生命現象について、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。また、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現する力を身に付ける。 地形の成り立ちやプレートテクトニクスなどの概念を理解し、自然災害が人間生活に与える被害や対策など、必要な知識を身につけ、行動力を養う。 |
| 3 | 3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用 5編 課題研究 | <ul style="list-style-type: none"> 熱に関する性質と熱とエネルギーとの関係を物理式を用いて説明できるようにする。 これからの科学と人間生活との関わり方について、科学的に考察し表現する力を身に付ける。それらに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 |
| 評価の観点 | | 評価規準 |
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解したか。 |
| 思考・判断・表現 | | <ul style="list-style-type: none"> 身近な事物・現象の中に問題を見出し、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、これからの科学と人間生活とのかかわり方について、科学的・論理的に思考し、自らの考えを表現することができるか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> 身近な事物・現象に関心や探究心、および、科学的な視点や見通しを持って自ら進んで調べ、学習に意欲的に取り組むなど、科学技術に対する関心を高める主体的な態度を身に付けているか。 |
| 評価方法 | | <ul style="list-style-type: none"> 評価は、上記の3観点について、定期考査、授業中の諸活動（小テスト、実験（取組、レポート）、発表、授業プリント、課題）などで行い、評価します。 学期の成績は、上記の三観点の評価を基にして、百点法と5段階評価で行います。 学年の成績は、各学期の上記の三観点の評価を基にして、百点法と5段階評価で行います。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| <p>授業の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校に比べると、内容が多くなり、進度も速くなるので、集中して授業に取り組みましょう。 ○ 現象や事象の原理まで掘り下げた内容を学習するので、内容は難しくなります。分からない場合は、積極的に先生に質問し、理解できるよう努めましょう。 ○ 小テストを行うので、特に復習を十分に行いましょう。 <p>家庭学習（予習・復習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 週に2時間しか授業がないので、前時の復習をしっかりと行い、既習事項の理解・確認に努めましょう。授業で行った練習問題やプリント等を利用して、しっかりと復習しましょう。 |

保健体育科「体育」

| | | | | | |
|-----|---|-------|---------|-------------|---------------|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科1年 | 教科書 副教材等 | 現代高等保健体育（大修館） |
|-----|---|-------|---------|-------------|---------------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。 |
|------|---|

| 学 期 | 学 習 内 容 | 学 習 の ね ら い |
|-----|---|---|
| 1 | 1 体育の学習について 2 集団行動 3 体づくり運動 4 球技選択 5 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・「体育」学習の意義や内容、評価の方法を理解する。 ・集団行動の意義や行い方を理解する。 ・体ほぐしの運動をする。自分の体力の実態を知るために体力テストをする。 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、仲間と連携する。 ・多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 |
| 2 | 1 集団行動 2 体づくり運動 3 球技選択 4 陸上競技(長距離走) | <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭での集団演技を規律よくできるようにする。 ・体力を高める運動をする。 ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、仲間と連携する。 ・自己に適したペースで走ることができるようにする。自己記録が更新できるようにする。 |
| 3 | 1 体づくり運動 2 球技選択 3 体育理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力を高める運動をする。 ・多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気づく。 |

| 評価の観点 | 評 価 規 準 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。 |
| 評価方法 | 『知識・技能』『思考・判断・表現力』『主体的に学習に取り組む態度』の3つの観点から評価します。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育てること。 ○体育の授業では、「敏速,正確な集合」「清潔,端正な服装」「礼儀作法の重視」「用具の整理整頓」「体力の向上」を心がけること。 |

保健体育科「保健」

| | | | | | |
|-----|---|-------|---------|-------------|-----------------------------------|
| 単位数 | 1 | 学科・学年 | 電気技術科1年 | 教科書 副教材等 | 現代高等保健体育(大修館) 現代高等保健体育ノート(大修館) |
|-----|---|-------|---------|-------------|-----------------------------------|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。 |
|------|--|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---------------|---|--|
| 1 | 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 | <ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方を学び、自分の健康観を持つ。 健康にかかわる要因、ヘルスプロモーションの理念、様々な保健活動、日本の健康水準や健康問題について理解する。 生活習慣病を予防するための方策を理解する。 がんの原因を学び、予防から回復までの知識を得る。 健康に生きるための食事・運動・休養のとり方について理解する。 喫煙・飲酒・薬物乱用に対する現状と対策について理解する。 |
| 2 | 1 現代の感染症 2 感染症の予防 3 性感染症・エイズとその予防 4 精神疾患の特徴 5 精神疾患の予防 6 精神疾患からの回復 7 健康に関する意思決定・行動選択 8 健康に関する環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> 現代の感染症について理解し、性感染症・エイズを予防するための知識を得る。 精神疾患について理解し、予防から治療・回復までの流れを学ぶ。 心身相関やストレスについて学び、健康な心を維持するための生活を考える。 欲求と適応機制について理解する。 |
| 3 | 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法 | <ul style="list-style-type: none"> 交通事故の特徴や関係する要因を理解する。 交通事故を防ぐための方策について理解する。 応急手当の意義、心肺蘇生法の原理や手順、日常的な応急手当の方法を理解し、実行できるようにする。 |
| 評価の観点 | | 評価規準 |
| 知識・技能 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。 | |
| 思考・判断・表現 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。 | |
| 評価方法 | 『知識・技能』『思考・判断・表現力』『主体的に学習に取り組む態度』の3つの観点から評価します。定期考査・授業の観察・保健ノートの提出・発表などを通じて評価します。 | |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|--|
| ○授業は白板を使用しながら、必要に応じて板書をするので、保健ノートを利用して丁寧に整理しておくこと。 ○先生の話をよく聞き、身近な日常生活と結び付けて考えていくと理解しやすい。 ○学習内容を確認するために、自主的に保健ノートの問題を解いていくこと。 |

芸術科「美術Ⅰ」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|-----------|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 美術Ⅰ（光村図書） |
|-----|---|-------|-------------|-------------|-----------|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。 |
|------|---|

| 学 期 | 学 習 内 容 | 学 習 の ね ら い |
|---------------|---|--|
| 1 | オリエンテーション 「美術は自由だ」 「鉛筆で描く」 「アクリル絵の具で描く」 「色の特徴を知ろう」 「文様で飾る」 | <ul style="list-style-type: none"> 表現の方法や作品の見方は人それぞれ自由であることを理解する。 鉛筆や絵の具を素材、用具として理解し、意図に応じて表現できる力を身に付ける。 他者に伝えるための表現の工夫や表現方法について理解する。 日本や諸外国の文様からそれぞれの美意識や創造性などを感じ取ったことをもとにデザインする。 |
| 2 | 「場所との対話」 「彫刻（塑像）の技法」 「組み合わせる」 | <ul style="list-style-type: none"> 自然を生かした作品づくりを通して、日本の季節の変化による美しさを味わう。 粘土による立体的な表現方法を理解する。 独創的な描き方に触れ、見方や考え方を深める。 同じ課題について、複数の表現方法でアプローチすることで、多角的、弾力的な視点を身に付ける。 |
| 3 | 「自己をあらわす」 「作家の手法」 「身近なものを描く」 まとめ | <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの見方や表し方に気づくとともに、それぞれの個性や好みの違いを尊重する。 作家の思いや経験を知り、自己の表現への取り組み方を考えたり探求したりする。 スケッチをとおして、日常にあふれる当たり前のものの美しさや尊さ、おもしろさを感じ取る。 1年間の学びを振り返る。 |
| 評価の観点 | | 評価規準 |
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 | |
| 思考・判断・表現 | 造形的な美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 | |
| 評価方法 | 上記の3観点を基に、出席状況・授業態度、提出物、課題目標の達成度などから総合的に評価します。 | |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎回の授業を大切に。技能や知識が自分のものにできるよう主体的に活動しましょう。 ○ 各課題の目標を意識して取り組み、提出期限は必ず守りましょう。 ○ 道具や画材を丁寧に扱い、整理整頓を心がけましょう。 |

英語「英語コミュニケーションⅠ」

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|
| 単位数 | 3 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | VISTA English Communication I (三省堂) |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 |
|------|--|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|----------------------------------|-----------------------|
| 1 | Lesson 1 Colors of Spring | ・ be動詞と一般動詞の現在形を理解する。 |
| | Lesson 2 Dick Bruna | ・ be動詞と一般動詞の過去形を理解する。 |
| | Lesson 3 Interesting Sports | ・ 現在進行形、過去進行形を理解する。 |
| | Lesson 4 Pictograms | ・ 助動詞、動名詞を理解する。 |
| 2 | Lesson 5 We Are Part of Nature | ・ 不定詞を理解する。 |
| | Lesson 6 Machu Picchu | ・ 現在完了形を理解する。 |
| | Lesson 7 Artificial Intelligence | ・ 受動態を理解する。 |
| | Lesson 8 Is There a Santa Claus? | ・ 関係代名詞を理解する。 |
| 3 | Lesson 9 Kid's Guernica | ・ 分詞、関係副詞を理解する。 |
| | Lesson 10 Ethical Fashion | ・ 比較表現を理解する。 |

| 評価の観点 | 評価規準 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場所、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けているか。 |
| 思考・判断・表現 | 日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしているか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。 |
| 評価方法 | 定期考査、平常の学習活動・学習態度、ノート・課題などの提出状況、小テスト、出席状況などにより総合的に評価する。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業には、本文をノートに書き写す、単語を調べるなど予習をして臨みましょう。 ○ 板書した内容をきちんとノートに取ること。 ○ 授業で用いたプリント（学習プリント、評価問題など）は、ノートに貼付すること。 ○ 本文を繰り返し読み、確実に読めるようにしましょう。 ○ ペアワークや音読練習などに積極的に取り組むこと。 ○ 単語は地道に覚えること。毎月の英単語テストにも意欲的に取り組み、語彙力を付けよう。 |

家庭科 家庭総合

| | | | | | |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科 1年 | 教科書 副教材等 | 家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍) 家庭科ノート 調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会) |
|-----|---|-------|-------------|-------------|--|

| | |
|------|---|
| 学習目標 | 家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中からとらえ、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活する上での様々な課題を解決するために、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付ける |
|------|---|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|--|---|
| 1 | 家庭科の学び方 1 生涯を見通す ・青年期の課題 ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる 2 衣生活をつくる ・被服の役割を考える ・被服を管理する ・被服を作る 実習 基礎縫い ホームプロジェクトの進め方について | <ul style="list-style-type: none"> 「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や学習方法、評価の方法を理解する。 今の自分を客観的に見つけ、職業選択や家族のあり方について考える。 家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し、現在の動きを知る。 被服の役割や機能を理解し、TPOに応じて健康的で快適な着装ができるようにする。 被服に適した選択や保管方法を知る。 実習を通して、基礎的な縫製技術を身に付ける。 自分の家庭生活の中から課題を見つけ出し、その解決に向けて実践出来るようにする。 |
| 2 | 2 衣生活をつくる ・実習 エプロン製作 ・これからの衣生活 3 食生活をつくる ・食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 | <ul style="list-style-type: none"> 自分に合った被服の製作ができる。 生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 高校生の食生活の現状から、これからの食生活のあり方について考える。 日常的な食品の栄養的特質や調理法の性質について科学的に理解する。 |
| 3 | 3 食生活をつくる ・食生活の選択と安全 ・調理の基礎 ・実習 スピード献立 (和・洋・中) ・生涯の健康を見通した食事計画 | <ul style="list-style-type: none"> 食品の選択や調理の際の安全に関する事項を学ぶ。 食生活の自立に必要な調理技術を身に付ける。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようにする。 |

| 評価の観点 | | 評価規準 |
|---------------|---|---|
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> 家庭生活の意義や役割を理解しているか。 生活を営む主体者として、家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。 被服製作に必要な基本的技術を身に付けているか。 |
| 思考・判断・表現 | | <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを自分の家庭生活にかかわらせて考えることができているか。 体験的な学習や生活の中で課題を見つけ、その解決に向けて改善策を考えられるか。 家庭生活の充実向上を目指して、自分の考えをまとめ、意見交換ができるか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭生活に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。 家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。 学んだ事を生かそうとする実践的な態度を身に付けようとしているか。 |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。具体的には、「授業態度・取組」「提出物(学習の記録・感想)」、「作品」、「小テスト」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とします。 | |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| ○家庭科は、実験・実習などの体験活動より、技術や知識を身に付ける教科です。失敗を恐れず取り組む姿勢が大切です。また、学習したことを定着させるために、積極的に家庭での生活に生かしましょう。 ○プリントの配布を行います。自分なりに工夫して、ファイリングを確実にしましょう。 |

電気技術科「工業技術基礎」

| | | | | | |
|-----|---|-------|----------|-------------|--------------|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科・1年 | 教科書 副教材等 | 工業技術基礎（実教出版） |
|-----|---|-------|----------|-------------|--------------|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。さらに、知的財産権等についても学ばせる。 |
|------|--|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|--|---|
| 1 | <p>〈屋内配線について学ぼう〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 単線図から複線図へ 2 外装・絶縁被覆のはぎ取り 3 電線の各種終端接続 4 各種器具への接続 5 金属管・PF管工事 6 総合工事 7 知的財産権の概要について | <ul style="list-style-type: none"> ・第二種電気工事士の技能問題を参考にし、単線図と複線図との違いを理解し、ケーブル工事や各種器具への接続、また金属管やPF管などの配管作業の基礎を学び、総合的な工事の基礎が行えるようにする。 ・知的財産制度、産業財産権の概要・意義・重要性を理解する。 |
| 2 | <p>〈計器の取り扱いについて学ぼう〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各種計器の取り扱い <p>〈直流回路・交流回路の実験〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 直流回路の基礎 <p>〈プリント配線について学ぼう〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プリント基板の製作 2 電子部品とその検査 3 はんだ付け | <ul style="list-style-type: none"> ・電流・電圧を理解し、計器の取り扱いや結線の仕方を学習する。 ・直流と交流に関する基本的な知識を身に付ける。 ・半導体の種類や用途、表示などについて理解を深め、ハンダ付けの原理や方法を習得し、プリント基板の作成の仕方を身に付ける。 |
| 3 | <p>〈プリント配線について学ぼう〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 はんだ付け <p>〈コンピュータについて学ぼう〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各種アプリケーション実習 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種アプリケーションの基本的な操作を身に付ける。 |

| 評価の観点 | 内容 |
|---------------|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・器械・器具の取り扱いや基本的な操作方法を理解しているか。 ・施工図や設計図を読み取り、また器機や器具を正しく使って作業を行い、目的とするものづくりや作業ができるか。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・器機、器具の取り扱いや技術について理論的に理解する。 ・電気の基礎的な理論において総合的に理解する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・各テーマに関する基礎的な知識と技術に関心を持って、その習得に意欲的に取り組んでいるか。 ・工業技術を活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けているか。 |
| 評価方法 | <p>学習の状況は「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。具体的には「出席」、「授業態度、取り組み」、「技能（作業）」、「提出物（レポート等）」により評価します。学年末の評価は1学期、2学期、学年末の成績を総合的に評価し、100点満点（五段階評価）で行います。</p> |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 服装を整え、準備物を忘れることなく、安全でスムーズな実習が行えるよう心がけてください。 ○ ノートを準備し、メモをとることを心がけてください。 ○ 作業は積極的に取り組み、また班別に活動することもあるので班員と協力してください。 ○ レポート等の提出物を忘れることなく、期限を厳守してください。 |

電気技術科「工業情報数理」

| | | | | | |
|-----|---|-------|----------|-------------|--|
| 単位数 | 2 | 学科・学年 | 電気技術科・1年 | 教科書 副教材等 | 工業情報数理 (実教出版) 3級情報技術検定試験標準問題集 (全工協) |
|-----|---|-------|----------|-------------|--|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。 |
|------|--|

| 学期 | 学習内容 | 学習のねらい |
|---------------|---|---|
| 1 | 1 産業社会と情報技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に関する用語を理解し、情報化社会の利点や問題点について考察できる。 ・OS とハードウェア、アプリケーションソフトウェアの関係を理解している。 ・プログラム言語の種類と特徴を理解する。 ・アルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。 |
| | 2 コンピュータの基本操作とソフトウェア | |
| | 3 プログラミングの基礎 | |
| 2 | 4 BASIC によるプログラミング | <ul style="list-style-type: none"> ・BASIC の特徴を理解し、簡単なプログラムを作成できる。 ・C の特徴を理解し、簡単なプログラムを作成できる。 ・2進数・16進数、論理回路、コンピュータの処理装置、周辺装置の構成や動作について理解している。 ・LAN、インターネットなどコンピュータネットワークの構成と通信技術について理解している。 |
| | 5 C によるプログラミング | |
| | 6 ハードウェア | |
| | 7 コンピュータネットワーク | |
| 3 | 8 コンピュータ制御 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ制御の構成や動作について理解し、制御方法を説明できる。 ・マルチメディアの概要やプレゼンテーションの技法について理解している。 ・いろいろな事象を数式として扱う方法を理解する。 |
| | 9 情報技術の活用と問題の発見・解決 | |
| | 10 数理処理 | |
| 評価の観点 | | 内 容 |
| 知識・技能 | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解しているか。 ・情報技術を活用した情報の収集・処理・活用能力を身に付けているか。 |
| 思考・判断・表現 | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身に付けているか。 ・情報技術を活用して情報を処理・表現できるか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | | <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもって、その習得に意欲的に取り組んでいるか。 ・情報技術を活用しようとする創造的・実践的な態度を身に付けているか。 |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取組」、「小テスト」、「提出物（課題・ノート）」、「定期考査」、「情報技術検定試験」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績を総合的に判断し、100点法（5段階含む）で評定をします。 | |

学習に対するアドバイスと留意事項

- 先生の話をよく聞き、分からないところは積極的に質問しましょう。
- 板書したことを丁寧にノートに写してください。また、こまめにメモを取りましょう。
- 定期考査前には、ノートや課題プリントをよく見て勉強すると良い結果につながります。
- 「3級情報技術検定試験標準問題集」およびPC 端末を常に用意しておいてください。

電気技術科「電気回路」

| | | | | | |
|-----|---|-------|----------|-------------|--------------|
| 単位数 | 4 | 学科・学年 | 電気技術科・1年 | 教科書 副教材等 | 電気回路1 (実教出版) |
|-----|---|-------|----------|-------------|--------------|

| | |
|------|--|
| 学習目標 | 電気に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。 |
|------|--|

| 単元 | 学習内容 | 学習のねらい |
|----|---|--|
| 1 | <電気回路の要素> 1 電気回路の電流と電圧 2 抵抗器・コンデンサ・コイル <直流回路> 1 直流回路 2 電力と熱 3 電気抵抗 4 電流の化学作用と電池 | <ul style="list-style-type: none"> 電流・電圧・抵抗の関係を理解し、電気回路図や数式で表現できる。 抵抗器、コンデンサ、コイルの役割を理解している。 オームの法則、キルヒホッフの法則、ジュールの法則を理解し、電流や電圧、発熱量、電力などの諸量を求めることができる。 抵抗率、伝導率、抵抗温度係数、ファラデーの法則、電池の原理・構造を理解している。 |
| 2 | <静電気> 1 電荷と電界 2 コンデンサ 3 絶縁破壊と放電現象 <磁気> 1 電流と磁界 2 磁界中の電流に働く力 3 磁性体と磁気回路 4 電磁誘導と電磁エネルギー | <ul style="list-style-type: none"> 静電現象、クーロンの法則を理解し、電界の強さや静電力などの諸量を求めることができる。 平行板コンデンサの原理を理解し、電荷、電圧、静電容量をなどの諸量を求めることができる。 絶縁破壊現象、放電現象について理解している。 クーロンの法則、アンペアの右ねじの法則を理解し、磁界の強さや電磁力などの諸量を計算できる。 電磁誘導現象を理解し、誘導起電力の向きや大きさなどを求めることができる。 |
| 3 | <交流回路> 1 交流の発生と表し方 2 交流回路の電流・電圧 3 交流回路の電力 | <ul style="list-style-type: none"> 正弦波交流の発生原理を理解し、周波数、周期、瞬時値、最大値、実効値、平均値などが計算できる。 R、L、Cの働きや位相および共振現象を理解し、ベクトル量として考察できる。 消費電力、力率、皮相電力、無効電力の物理的な意味を理解し、諸量を計算できる。 |

| 評価の観点 | 内容 |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 基本的な電気現象を量的に取り扱うことができるか。 電氣的諸量の相互関係について原理・法則を理解しているか。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 電気現象の意味を考え、電気に関する知識と技術を活用して考察し、その考えを的確に表現できるか。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 電気現象が数式により表現できることに興味・関心を持ち、新しい事柄に対して意欲的に取り組んでいるか。 |
| 評価方法 | 学習の状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価する。具体的には、「出席」、「授業態度」、「小テスト」、「提出物（課題・ノート）」、「定期考査」により評価する。また、学年の成績は上記の観点から評価した各学期の成績をもとに、100点法（5段階含む）で評価します。 |

| 学習に対するアドバイスと留意事項 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 板書したことを丁寧にノートに写してください。板書しなかったこともメモしましょう。 ○ 課題プリント等はノートに貼り付けるなどして、紛失しないようにしてください。 ○ 先生の話をよく聞き、分からないところは積極的に質問しましょう。 ○ 定期考査前には、ノートや課題プリントをよく見て学習するとよい結果につながります。 ○ この「電気回路」で学習する内容は、2・3年生で学習する「電気機器」・「電力技術」・「電気実習」などを理解する上で必要な法則・定理なので、繰り返し学びましょう。 |